

## <2022年度修学旅行研究会開催報告>

日時：2022年11月15日(火)

場所：名古屋都市センター会議室

発表校：碧南市立西端中学校

テーマ：With コロナの修学旅行 ～最大限の活動を目指して～

### 【修学旅行のねらい】

#### (1) 経験と見聞 ～SDGsを学ぶ～

首都東京の歴史や文化、山梨の自然にふれることにより、経験、見聞を深める。

#### (2) 集団行動 ～コロナ対策～

集団の中で自分の行動に責任をもち、社会の一員としての自覚を高める。

#### (3) 思い出と絆

日頃味わえない体験活動を通して仲間とふれ合い、共通の思い出をつくり、絆を深める。

### 【事前学習】

#### (1) 修学旅行に向けて SDGs を学び、経験、見聞を深める

- ① 身近な SDGs を探そう（2年生 1学期）
- ② SDGs で新聞切り抜き作品を作ろう（2年生 2学期）
- ③ ディズニーでインタビューしよう（3年生 1学期）

#### (2) 学年集会～With コロナで最大限の活動を～（3年1学期）

#### (3) クラス別研修の行き先決定（3年生1学期）

#### (4) ディズニーアカデミーの実施（3年生 1学期）

### 【修学旅行の日程】

1日目 学校⇒ディズニーシー（昼食・夕食）⇒ディズニーセレブレーションホテル

2日目 ディズニーセレブレーションホテル⇒国会見学⇒〔クラス別①浅草→屋形船（昼食）  
→スカイツリー ②森と湖の楽園（昼食）→フォレストアドベンチャー〕⇒忍野民宿

3日目 忍野民宿⇒〔体験別 ①カヌー ②マウンテンバイク ③洞窟探検〕⇒ふなつや（昼食）⇒学校

### 【当日の活動】

#### (1) 1日目

名古屋駅からは新幹線で東京駅、そこからバスでディズニーシーへ向かった。ディズニーシーでは、事前学習で考えた質問を行い、働くうえで大切なポイントも体験することができた。

#### (2) 2日目

クラス別研修。A組は、東京で浅草寺の散策、屋形舟で遊覧と昼食、東京スカイツリーでウィッシュリボンの作成を行った。B組は、山梨に向かい、ロハスホールでカレーの飯盒炊飯を行った。その後全員で、フォレストアドベンチャーでの自然体験活動、民宿でよもぎ団子づくりやレクリエーションなどを行った。

#### (3) 3日目

マウンテンバイク、カヌー、洞窟探検の体験ごとにバスに乗り河口湖周辺に移動した。どの体験もはじめての生徒が多かったが、インストラクターの丁寧な指示により、安全で充実した体験活動となった。

### 【成果】

#### (1) 経験と見聞 ～SDGsを学ぶ～

ディズニーシーではすべての班がキャストに質問することができた。中にはアトラクション「タートルトーク」で質問する生徒もいた。さまざまな企業が SDGs に関わって活動をしていることを学んだ。

#### (2) 集団行動 ～コロナ対策～

ディズニーなどで密になりそうな場面では、お互いに距離を取るよう声をかけられる姿が見られた。ホテルや民宿では、宿舎の定めるガイドラインに沿って修学旅行を実施し、体調不良者がなく修学旅行を終えることができた。

### (3) 思い出と絆

修学旅行に携わる人たちの尽力があって成功したということを多くの生徒が学ぶことができた。宿泊や体験、バスなど、あらゆる場面で「ありがとうございました」と、感謝の言葉が自然とあふれ出てくる3日間であった。

#### 【課題】

コロナ禍前の修学旅行と比較すると、感染症対策の視点からグループ活動を避け、クラス別研修を多く実施したことで交通費、体験費用が増額し、保護者の金額負担が増えてしまった。修学旅行は保護者の金銭的な負を減らしていく必要があり、修学旅行のねらいを達成するためのさまざまな可能性を考えていきたい。

2023年度は、名古屋市立東星中学校の事例発表を予定している。

# Withコロナの修学旅行 ～最大限の活動を目指して～

校長 山田 忍  
教諭 柏倉 崇晴

## 愛知県 碧南市立西端中学校

### ●学校紹介

本校のある碧南市は、県庁所在地の名古屋市から40キロメートル圏内に位置している。北は油ヶ淵、東は矢作川、西・南は衣浦港と、周囲を水に囲まれ、地形的には標高約10メートル強の碧海台地と矢作川沖積地からなる平坦地で、温暖な気候と風土に恵まれた市である。

西端地区は、昭和三〇（一九五五）年四月、碧海郡明治村から碧南市に合併、碧南市大字西端としてスタートした。当時、西端地区の中学生は4キロほど離れた新川中学校に通っていたが、昭和五六（一九八一）年四月に西端中学校が開校。42年目を迎える。生徒数は217名、9学級（特3倉）の小規模校である。



校舎外観

### School Data

- 【創立年】 昭和56 (1981) 年
- 【所在地】 愛知県碧南市神田町3-10
- 【教育目標】 校訓「誠実・協調・努力」のもと、知・徳・体の調和のとれた豊かな心をもった生徒を育成する。
  - ・命を大切にし、心や体を鍛え、たくましく生きる生徒
  - ・真理を求める態度と、自ら学び考え、広い視野をもって正しく行動する生徒
  - ・礼儀正しく、自らを律し、他に温かく思いやりのある生徒
  - ・勤労を尊び、進んで奉仕する生徒
- 【全校生徒数】 217名
- 【教職員数】 25名

### 実施要項

- 旅行先 東京都、山梨県
- 時期 令和4 (2022) 年5月24日 (火) ~26日 (木) 2泊3日
- 参加生徒数 第3学年2クラス 73名 (内特1名)
- 引率者 7名
- 日程概要

【1日目】 学校⇒ (バス・新幹線・バス) ⇒ディズニーシー (昼食・夕食) ⇒ディズニーセレブレーションホテル
【2日目】 ディズニーセレブレーションホテル⇒国会見学⇒ [クラス別①浅草→屋形船 (昼食) →スカイツリー ②森と湖の楽園 (昼食) →フォレストアドベンチャー] ⇒忍野民宿
【3日目】 忍野民宿⇒ [体験別 ①カヌー ②マウンテンバイク ③洞窟探検] ⇒ふなつや (昼食) ⇒ (バス) ⇒学校

## はじめに

新型コロナウイルス感染症の拡大により、令和二・三年度は、感染が拡大している方面を避け、日程を1泊2日に短縮し実施した。今年度は、当初の計画どおり、2泊3日、東京、山梨方面への修学旅行を計画した。感染拡大により幾度となく日程の変更を検討してきたが、予定通り実施することができた。

生徒たちは、感染症対策をしつかり行い、安全に修学旅行を行うことが、後輩たちの修学旅行も充実させることができると考えた。そして、感染拡大させないための対策を十分にした上で、最大限にできる活動を工夫しながら修学旅行を実施した。

## ねらい

- (i) 経験と見聞 ～SDGsを学ぶ～  
首都東京の歴史や文化、山梨の自然にふれることにより、経験、見聞を深める。
- (ii) 集団行動 ～コロナ対策～  
集団の中で自分の行動に責任をもち、社会の一員としての自覚を高める。
- (iii) 思い出と絆  
日頃味わえない体験活動を通して仲間とふれ合い、共通の思い出をつくり、絆を深める。

### ●重点を置いた活動

SDGsを修学旅行の柱にし、  
事前学習で学んだことを旅行先で確かめることで、  
学びを深める

## 事前学習

(i) 修学旅行に向けてSDGsを学び、経験、見聞を深める

生徒は2年生の時に、SDGsは身近なところにあるということを学んだり、自分の興味のあるSDGsについて新聞記事を集め、新聞切り抜き作品としてまとめたりした。生徒は、これらの活動を通して、今までの生活を見直し、小さなことでもいいから今の自分のできることを見つけ出して、未来の地球のために行動していきたいという思いをもつようになった。



新聞切り抜き作品に取り組む生徒

3年生では、2年生までのSDGsの学びをつなげて、修学旅行で訪れるデイズニーシーでSDGsの取り組みについて、直接キャストに質問したいということになった。

(ii) 学年集会 ～Withコロナで最大限の活動を～(3年1学期)

今年度、東京、山梨という日程を成功させることが、後輩たちの修学旅行につながることを考え、感染者を出さない、広げないためにできることは何かという話し合いを行った。バス、新幹線、デイズニーシー、ホテル・民宿といったそれぞれの場所に分けて意見を出し合った。日常の感染対策の強化に加え、お菓子の交換などをしない、ものを共有しないなどの意見も出された。また、修学旅行の新型コロナウイルス感染防止対策として、ガイドラインの作成、宿泊先の部屋数を増やす、こまめな検温と消毒、実施2週間前からの行動の記録を行った。

(iii) クラス別研修の行き先決定(3年生1学期)

2日目のクラス別研修の見学先は各学級で調べ学習をして決めた。

3年A組は、東京で浅草寺散策、屋形舟で遊覧と昼食、東京スカイツリーの3箇所になった。浅草寺ではクラス全員で合格祈願を行い、仲見世通りを散策する。屋形舟に乗り江戸時代の娯楽を体験する。東京スカイツリーではウィッシュリボンに参加し、医療支援に貢献するという目的をもって決定した。

3年B組は、2年生の林間学校で実施することができなかった飯盒炊飯をやりたいというこで、東京から離れて山梨でカレーづくりを計画した。その後は、自然体験をしたいという思いからフォレストアドベンチャーでストレッチの体験を計画した。

## 修学旅行の様子

### (1) 1日目

朝の登校時には、養護教諭が健康チェックカードと生徒一人一人の表情を見て体調確認を行い、名古屋駅まではバスで移動した。名古屋駅からは新幹線で東京駅、そこからバスでディズニーシーへ向かった。

ディズニーシーでは、事前学習で考えた質問を行い、働くうえで大切なポイントをつかむことができた。12時から20時までの滞在であったが、途中15時から17時の間に本部にて、検温による健康チェックを行った。20時終了



ディズニーシーでの健康チェック



屋形船



フォレストアドベンチャー

とし、その後はバスでディズニーセレブレーションホテルに向かい、22時に消灯・就寝した。

### (2) 2日目

9時から国会議事堂の見学、10時からクラス別研修を行った。

3年A組は、東京で浅草寺の散策、屋形舟で遊覧と昼食、東京スカイツリーでウィットシユリボンの作成を行った。感染対策のためグループ毎の活動を行わなかったが、生徒は満足そうな表情であった。



浅草寺

3年B組は、山梨に向かい、ロハスホールでカレーの飯盒炊飯を行った。2年生の林間学校で行えなかった飯盒炊飯ができて、生徒は満足そうであった。その後は、フォレストアドベンチャーで自然体験活動を行った。はじめは不安でやれそうになかった生徒も、時間が経って練習していくうちに、全員が楽しんで取り組むことができた。

忍野八海おしのほっかいの民宿では、よもぎ団子づくりや



飯盒炊飯

民宿の方とレクリエーションなどを行った。

### (3) 3日目

3日目は、体験ごとにバスに乗り移動した。自然体験は、河口湖周辺で行った。体験内容は、マウンテンバイクとカヌーと洞窟探検の3つである。それぞれ10時から12時までの2時間程度の活動となった。どの体験もはじめての生徒が多かったが、インストラクターの丁寧な指示により、安全で充実した体験活動となった。

## 成果

### (1) 経験と見聞 ～SDGsを学ぶ～

〈生徒の感想より抜粋〉

・食べ物の売れ残りの一部は、動物の餌や肥料に、噴水など水を使うアトラクションの一部では、雨水や海水を使っていると

知りました。

・アトラクションの燃料は、ガソリンではなく、天然ガスやデイズニー内で発電した電気を使っていると知りました。

デイズニーではすべての班がキャストに質問することができた。中にはアトラクション「タートルトーク」で質問する生徒もいた。さまざまな企業がSDGsに関わって活動をしていることを学ぶことができた。



SDGsの質問をする生徒

(ii) 集団行動 ～コロナ対策～

〈生徒の感想より抜粋〉

・友達と一緒だからはしゃぎたい気持ちになっただけ、それよりもみんなの健康や自分の安全のために落ち着いて行動することができた。

・デイズニーでお土産を買うときに、感染対策を意識して距離をあけて並びました。



マウンテンバイク体験



民宿でよもぎ団子づくり

た。

新幹線やバス内では感染対策を考えて、落ち着いて過ごすことができた。デイズニーなどで密になりそうな場面では、お互いに距離を取るように声をかける姿が見られた。ホテルや民宿で、マスクを外す食事などの場面では、しゃべらないことを徹底できていた。

食事について、ホテルでは、向かい合う席にならないように人数を制限し、民宿ではアクリル板を設置し、配膳はすべて民宿の方にやっていただいた。また、民宿には修学旅行前3日間の検温表を提出するなど、民宿組合の定めるガイドラインに沿って、修学旅行を実施した。それらの結果、3日間体調不良者がなく修学旅行を終えることができた。

(iii) 思い出と絆

〈生徒の感想より抜粋〉

・この修学旅行を良いものにするために、毎日帰りに残って準備してくれた実行委員のみんなにとっても感謝しています。

・自分の成長をとっても感じる事ができた修学旅行でした。成長できたのは、自分一人の力でなく、サポートしてくれた友達や、実行委員の人、修学旅行に関わってくれたたくさんの人たちがいたからだと思います。

・感謝を意識して行動しました。自分の気持ちを素直に伝えるのは大事だなと思いました。

課題

今回実施できた修学旅行は、それに携わる人たちの尽力があつてこそ成功したものだということも多く生徒が学ぶことができた。宿泊や体験、バスなど、あらゆる場面で「ありがとうございます」と、感謝の言葉が自然とあふれ出てくる3日間であった。



カヌー体験

世の中に新型コロナウイルス感染症が蔓延し始めて、今年で3年目となる。1、2年目は目的地を東京から変更し、さまざまな可能性を模索した。今年度から、目的地を東京山梨に戻した。3学年の生徒全員が参加し、コロナ感染者が一人も出ることなく実施できたことは、来年度以降の修学旅行につながるためにも、とてもよい経験となった。

しかし、コロナ禍前の修学旅行と比較すると、感染症対策の視点からグループ活動を避け、クラス別研修を多く実施したことで、交通費、体験費用が増額した。時間を有効に使いながら、充実した活動ができるように内容を精査していきたい。